医療・介護 最前線

# 輸送容器、ワクチンで脚光

## スギヤマゲン（東京都）

医療機器の販売・開発を手掛けるスギヤマゲン（東京・文京）が新型コロナウイルスのワクチン輸送などに使う定温輸送容器の分野で脚光を浴びている。国から受注した保冷バッグや超低温を12日間保持できる断熱ボックスなど、輸送や保管など目的に応じた製品を展開している。

スギヤマゲンの委託工場（埼玉県春日部市）で出荷準備を急ぐのは高齢者向けの接種が始まった新型コロナワクチンの輸送に使う保冷バッグだ。同社のバッグにシャープが液晶技術を応用して開発したセ氏3度の温度を維持できる蓄冷材を入れたものだ。国から4万個を受注し、現在も荷作業を進めているさなかだ。国以外にも全国の自治体から3万個を受注した。

スギヤマゲンはワクチン保冷バッグの出荷を進めている（埼玉県春日部市の工場）

ビニール製のバッグの中に厚さ45ミリメートルの発泡スチロールの箱があり、さらにその中には温度を均一にするためのアルミニウムの内箱が入っている構造だ。アルミの内箱によって内部が均一に冷やされる。セ氏2～8度の冷蔵状態を12時間保ち、一つのバッグで50瓶分のワクチンを運べる。

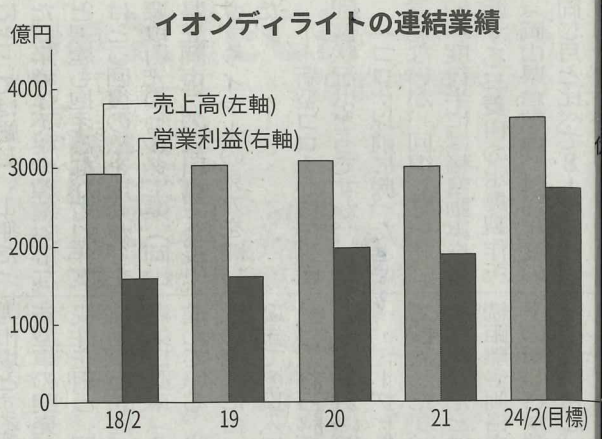
同社は臨床検査機材など医療機器全般を扱っている。その中で近年伸びているのが、一定の温度を維持できる定温輸送容器の分野だ。ワクチンや細胞などの運搬にはセ氏2～8度、血液の輸送にはセ氏2～6度など一定の温度を維持できる。温度管理がシビアなバイオ医薬品や検査の検体の運搬に使われている。

2020年12月からは保冷バッグより高性能な「定温輸送容器セット」を販売している。スギヤマゲンの定温輸送容器に保冷バッグにも使うシャープ製の蓄冷材をセットにした。内側に真空断熱材を使った容器を使っているため、保冷バッグの半分の蓄冷材で同じ12時間の冷蔵状態を維持できる。

さらに低温に対応した製品もある。21年2月から販売した断熱ボックスはマイナス70度の超低温を12日間保持できる。ドライアイスを入れて保冷し、電源は使わない。特許を取得しているボックス内部の真空断熱材の構造によって高い保冷機能を実現した。自治体のコロナワクチン保管に利用され、停電などで保冷庫が使えなくなった場合の対策として導入されるケースが多いという。

同社の杉山大介社長は「高精度な温度設定をよりシンプルな手順でできる輸送容器を提供していきたい」と話す。新型コロナ終息後についても「バイオ医薬品や検体の輸送といった本来の使われ方に加えて、災害の医療現場などでも活用の場が広がる」と期待を込めている。（藤田翔）

# イオン



新型コロナ下で新たな収益機会を取り込めるかが重要になる

# メガネと繊維、福井の技で使い勝手良く

チタンなどの金属加工を手掛ける清水工業所（福井県鯖江市）は、マスクフックと呼ばれる留め具の新商品を開発した。浴衣帯の小杉織物（同県坂井市）の絹マスクとセットで試験販売した。メガネ部品製造のササマタ（鯖江市）もマスク新製品を同県越前市の縫製会社と開発した。福井の地場産業、メガネと繊維がマスクで協働する動きが出ている。

マスクフックの新製品「GLASSIA（グラシア）」は、メガネ枠などの工業デザインを手掛けるアイ・デザインスタジオ（福井市）が企画・デザインし、清水工業所が製造・販売する。髪留めに似た形状で、マスクの耳ひもを後頭部で留める。

チタン製フレームの中央に模様をつけたアセテートを配している。いずれもメガネの製造技術を活用した。マスク着用時の耳の痛みを軽減する。色柄は現在8種ある。重さ17グラムで価格は4200円。

まずクラウドファンディングサイト「マクアケ」で販売した。6月中旬からサイトなどで発売する。マクアケでは小杉織物がマスクとコーディネートする4種もそろえた。

小杉織物は新型コロナの影響でマスク不足が年4月から高機能のマスクを投入し、1年で15万枚ヒット商品となった。業所の清水英夫社長はドを確立しているやかり、快適なマス

# 明利酒類、家庭用新ブランド

【水戸】酒造会社（水戸市）は、コロで東京都などの飲食供の抑制が求められブランドの販売を始店向けに出荷予定だや梅酒を、家飲み向ラベルで限定販売し「Non Title（題）」には本来の銘貼って出荷できない

明利酒類が発売したTitle.